

あっ地震だ

監修

群馬大学大学院工学研究科教授
広域首都圏防災研究センター長
片田 敏孝

津波は？

じぶんの命はじぶんでまもる



企画意図

大地震、大津波は、いつ、どこで起こるか分かりません。もしかしたら、明日、起こるかもしれません。

でも、幼い子供たちには、そのことを伝えて「不安にさせる」のではなく、「行動すること」の大切さを教えることが、まず何よりも重要です。

「行動すること」とは、もしグラツときたら、どのように身を守るか、津波が発生したら、どう逃げ切るか、自ら判断し行動へと移すことなのです。

東日本大震災の時、岩手県釜石市では、津波から率先して逃げた小学生が指定避難場所についたものの「ここは危ない、次へ行こう」と防災教育で学んだ「主体的に考える」ことを実践し、多くの子供が大津波から逃れ生き延びました。

そこで、この作品では、子供たちに親しみもてるサル兄妹を主人公に、幼稚園や学校、自宅にいる時、外出している時など、様々な場面で大地震や大津波が発生したら、どのような行動をとればよいか、災害から生き抜く力を具体的に、分かりやすく描いています。

映学社・リバティアニメーションスタジオ作品

作品の概要

■今日は、どうぶつ村の避難訓練

ここは水と緑、食べ物も豊かな、どうぶつ村。
今日は村をあげての避難訓練の日。大きな地震が来て、そのあと津波が来たという想定だ。
さて、サル太郎の小学校・姫子の幼稚園では…

■いざという時のため真剣に避難訓練をしよう

「地震発生」校内放送の指示で机の下にもぐる生徒たち。おや、おや?ニャン太とワン太は不真面目な態度!先生に注意を受ける。その後、大津波警報が出たとの想定で小学校の生徒は全員、すばやく高台へと避難し、今日の避難訓練は無事終了。
一方、川の中では魚たちが、サル太郎たちの避難訓練を見ていた。そしてナマズの親分が魚たちに津波が来たときの川の恐ろしさを教えている。津波は、まず川を、すごい勢いで登ってくるということ…

■「地震発生!」街中では建物のそばから離れる

午後、サル太郎と姫子が下校中、本物の地震が!!!安全な場所へ移動して、カバンで頭を守ってしゃがみこむサル太郎と姫子。そこにゴリラのおじさんが現れ、揺れが収まると物が落ちてこない、もっと安全な公園に誘導してくれた。そしてゴリラのおじさんはサル太郎たちに「街中で津波が来たら、家に帰るより高いビルの最上階に登るほうが安全」と重要なことを教えてくれた。
一方、ニャン太とワン太は、身を守る行動ができなかった。案の定、怪我をして地震の怖さを思い知る事になる。

■家族で集合場所を決めておく

その夜、サル太郎の家では、お父さんが地震が起き、津波が起きる仕組みを説明してくれた。
そして家の近所の高台を集合場所に決めた。
すると、またもや大きな地震が発生!
テーブルの下にもぐって身を守るサル太郎と姫子。
地震が収まってホッとするのだった。

■夢の中で大津波発生、川のそばにいたら?

一家団らん後、眠りについたサル太郎は、川遊びの最中に大地震が起こる夢を見た。津波が起き、すごい

勢いで川を登ってきた。のんきに川沿いを歩いていたニャン太とワン太が、あわや津波に飲み込まれそうに。川に沿って逃げちゃダメ! 川から離れ高台へ!

■日々の備えが、いざという時、命を守る

次の日、サル太郎と姫子が通学、通園すると、またまた大きな地震が発生!
幼稚園の園庭で遊んでいた姫子たちは、急いで塀から離れ、園庭の中央でしゃがみこむ。

川の中では魚たちが津波に備えて上流へ避難。忘れ物を取りに帰ろうとする魚に、ナマズの親分が厳重注意。「避難する時は、絶対に戻ってはダメだ!」

高台に避難したサル太郎たち。その日、津波は来なかったが、こうして一生懸命、避難訓練していることが命を守ることにつながるのだ、と再確認するのだった。

監修 群馬大学大学院工学研究科教授
広域首都圏防災研究センター長
片田 敏孝

企画・制作 高木 裕己 藤井 正和
脚本・監督 高木 裕己
アニメ演出・原画 菊田 武勝
音楽 加藤 由美子

制作・著作 (株)映学社
(株)リバティアニメーションスタジオ

■ライブラリー価格
65,000円(本体価格)

■学校価格 (幼稚園・小学校のみ)
33,000円(本体価格)

■VHS・DVD【14分】

■2012年制作

●お問い合わせ、お買い上げは……

 株式会社 映学社
EIGAKUSYA CO.,LTD.

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-7-8らんざん5ビル
TEL: 03-3359-9729(代表) FAX: 03-3359-4024
<http://www.eigakusya.co.jp/>